

高齢者グループにおける活動維持要因

－ 介護予防事業「いきいきサロン」のマイクロ・エスノグラフィーから －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
中本 友梨

超高齢化社会を迎えた現在，高齢者の心身に対するあらゆるサポートの推進が急務となっている。保健福祉領域において介護予防の取り組みがなされており，筋力トレーニング教室やサロン活動などが開始されている。本研究では，一つのサロン活動に焦点を当て，その活動維持要因を検討した。対象は筆者の出身地である A 県 B 町の「いきいきサロン(以下，サロンとする)」とし，フィールドワークを行った。メンバーに対するインタビュー調査およびサロンの場において発生した「笑い」に焦点をあてた観察を行い，サロンの活動維持要因を検討した。結果として，まず，メンバーがサロンに参加することを可能とする要素，サロンの方向性を強制しないという要素，サロン活動が危機に陥った過去，当番制という運営スタイルが挙げられた。これらの要素が活動維持要因である「非日常」という「いきいきサロン」の特色を創り上げたと考えられた。メンバー個人のところに着目し，さらにその場の文化といえるものにも着目する立場でグループ活動の維持について検討した本研究は意義深いと言える。多様な視点から高齢者，そして高齢者グループを捉えることが，高齢者の「厚く生きる」ということに繋がっていくだろう。